

## 研究結果報告書

### 中国人日本語学習者と在中日本人の日本語：中国語のタンデム学習プロジェクトの試み

所属： 中国広州大学外国語学院日本語専攻  
役職： 講師  
氏名： 欧 麗賢

本研究は中国の広州大学において、日本語-中国語タンデム学習プロジェクトを立ち上げ、参加者の学習実態を調査することを目的としたものである。タンデム学習プロジェクトを立ち上げることによって、中国人の日本語専攻の大学生たちと日本人中国語学習者にとって目標言語を習得できるインフォーマルラーニングの機会を提供するとともに、日中文化交流の架け橋になる人材を育成することに貢献できると考えられるためである。

本研究はカリキュラム外の日本語学習活動としてタンデム学習の立ち上げを試みるものであるため、参加者が自由参加という原則で年に2回募集をかけた。日本語学習者は広州大学の日本語学科に在籍している学生であり、日本人の中国語学習は中国の広州、深セン、東莞などの日系企業が多く進出している都市で生活している日本人を対象とすると計画した。だが、プロジェクトを行う中で言語の需給関係のアンバランスであるため、地域を問わずに中国の国内のほかの都市や日本の大学の中国語専攻の学生にも募集をかけた。距離的に近いペアは対面式タンデム学習を行い、地理的に離れた場所にいるペアはEタンデムで学習を行った。その結果、広州大学日本語専攻の96名の学生、日本人中国語学習者の45名がこのプロジェクトに参加した。そのうち、在中日本人留学生が12名であり、在中日系企業の会社員および家族が10名であり、日本の大学の中国語専攻の学生25名であった。実際にペアリングができ、学習を行えたペア数は42ペアであった。そのうち、対面式タンデムは7ペアで、Eタンデムは35ペアであった。研究者はプロジェクトのコーディネーターとして参加者の学習をサポートする役割を果たしていたと同時に、参加者の学習過程のデータも収集した。収集できた研究データは、1) このプロジェクトに参加する動機づけのアンケート、2) 参加後の満足度のアンケート、3) コーディネーターのアドバイジングの会話データ、4) 学習過程の録音、5) 参加後の学習者へのインタビューデータの5種類である。以上に取り上げた研究データを分析し、タンデム学習プロジェクトに参加した中国人日本語学習者が、プロジェクト参加期間中、どのように日本語学習を行っているか、どのような要因が学習を促進しているか、または妨げているか、という2つのリサーチ・クエスチョンを明らかにしつつ、中国の大学におけるタンデム学習の可能性を探求しようとしている。

研究結果は2019年5月に上海同済大学で開催された日語教育・日本学研究国際研シンポジウムで「自由参加を基本とした中国語-日本語のタンデム学習プロジェクトの試み：広州大学での実践を例に」という題目でプロジェクトの参会者の参加動機や学習活動、また学習の際に直面する問題点について口頭発表した。また、中国でタンデム学習の認知度を上げるために、「日本語-中国語のタンデム学習プロジェクト」のホームページを作った。2020年1月からホームページを公開する予定である。

今後の計画として、本研究助成のおかげで立ち上げたタンデム学習プロジェクトを継続的に行なっていく、現時点で収集できた研究データを会話分析やケース・スタディなどの質的研究法によって、中国の日本語専攻の大学生を対象としたタンデム学習における学びのメカニズムを解明していくことである。

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名：自由参加を基本とした中国語-日本語のタンデム学習プロジェクトの試み：広州大学での実践を例に  
発表者名：欧麗賢  
会議名：2019年日语教育・日本学研究国際研シンポジウム  
日時：2019年5月10日-5月12日  
場所：中国上海同济大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

(1)

題名：互惠学習理念下网络跨文化互动协作模式探究 (互惠学習理念に基づいたネット上の協働型異文化コミュニケーション)

発表者名：欧麗賢・謝平・鄭吳姝

論文論文掲載誌：中国の外国語の学術誌 (投稿中)

掲載時期：2020年

(2)

題名：教室外学習としてのタンデム学習プロジェクトにおける日本語学習の実態

書籍名：ポスト黄金時代を迎える中国の日本語教育：現場からの新しい風 (暫定)

発表者名：欧麗賢

著者名：黄均均 (中国華中科技大学)・楊秀娥 (中国中山大学) (編集)、  
細川英雄 (早稲田大学名誉教授 監修)

出版社：ココ出版 (暫定)

発行時期：2020年

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)